

6月30日（火）

## 瑞浪北中代表 Y・S 君 主張大会で優秀賞受賞

今年度の瑞浪市主張大会は、瑞浪市文化センターで聴衆を前にして行われず、動画による審査となりました。

瑞浪北中学校の代表は、生徒会長の3年 Y・S 君。臨時休校中に練った構想をもとに、担当の T 教諭と練り上げ、「本気になれば世界が変わる」と題した主張作文を完成させました。

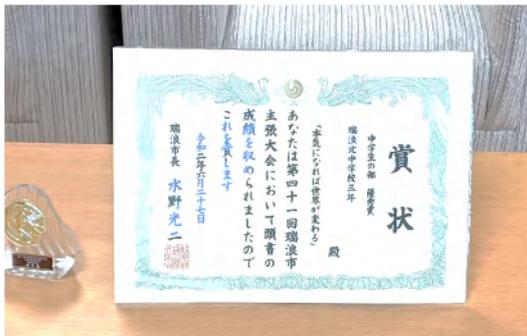
これまでの学校生活で学んだことを最大限に生かして、中学最後の一年間を最高のものにしたいと強く思っていた矢先の臨時休校。しかし、下を向いているだけでは前に進めない。こんな時だからこそ、「本気」を大切にして取り組み仲間と共に成長したい。（全文は後述）……今の状況を前向きに受け止め、一生に一度の中学時代を本気で締めくくろうとしている今の思いを Y・S 君は力強く主張します。



担当の T 教諭（左）が見守る中、堂堂と語る Y・S

録画は、6月24日の授業後に行われました。瑞浪市教育委員会社会教育課の職員と、主張大会担当の T 教諭が見守る中、Y・S 君はカメラを前に堂堂と語りました。

審査は撮影された動画で行われました。その結果は「優秀賞」。一人一人の主張に優劣はありません。開校2年目を託された現3年生。そしてその中から生徒会長として選ばれた Y・S 君。中学時代の仲間を感じながら、「みんなで成長する北中」をぜひとも実現させてほしいと願っています。



## 本気になれば世界が変わる

瑞浪市立瑞浪北中学校 三年 Y・S

「本気になって一歩を踏み出してみよう。そうすれば、見えてくる世界が変わる。」これは、中学校に入学した日に、担任の先生から教えていただいた言葉です。そして、中学三年生になった今でも、強く印象に残っています。今改めて自分に問いかけてみました。僕が本気になったのは、どんなときだろう。

まず頭に浮かんだのは、体育大会です。僕は運動が苦手ですが、精一杯やろうと練習に臨みました。しかし、大縄跳びの回数がなかなか伸びず、みんなの気持ちはばらばらでした。僕自身、「これがベストじゃないかな。」と、限界のラインを決めていました。そんなときです。仲間が「もっと本気でやろうよ！まだできるよ。」と元氣よく励ましてくれたのです。僕は、はっとしました。自分が本気になれていなかったことに気付いたのです。それからは、僕も励ましの声をかける側になり、諦めないで練習しました。本番は、それまでで最高の回数を記録することができました。「やりきった。」という大きな達成感がありました。「本気になる」とは、自分の限界を決めずもてる力を最大限に出すことだと考えるようになりました。

この経験が、合唱発表会で生かされました。時には、合唱に向かう気持ちに差ができたり、練習の仕方について意見がぶつかったりしました。それでも僕は諦めず、仲間にも何度も声をかけました。限界のラインを自分で決めず、僕は、合唱にも仲間にも向き合いました。自分が本気の姿を示せば、仲間も本気で応えてくれることを実感しました。本番は、みんなの心が一つになったことが感じられる、最高の合唱を披露することができました。一人では決して味わえない楽しさや感動があるのだと学びました。

これまで、自分の最大限の力を出して活動することができたのは、仲間がいてくれたからです。意見がぶつかること、言い合いになることがありましたが、話し合いをしたり、一緒にとことん練習したりしました。諦めず本気で向き合ったことで、絆が深まったと感じています。僕は仲間にも何度も助けられました。行事に取り組むとき、生徒会選挙に挑戦するとき、活動のリーダーに立候補するとき。どんな場面でも仲間は僕を支え、背中を押してくれました。本当にありがとう。

これらの経験をつなげて、中学校最後の一年間、これまで以上に「本気で仲間と関わり、本気で行事に取り組んでいこう」そう意気込んでいた矢先、新型コロナウイルスの影響で、多くの楽しみや希望が失われる事態となりました。最後の一年間のうち二か月も、仲間と会えない日々が続いたのです。仕方がないこと、耐えるべきこと、と理解していても、なかなか受け止められませんでした。しかし、下を向いているだけではどこにも進めません。こんなときだからこそ、「本気」を大切にしなければ、と考えました。今、僕にできる最大限のことは、大切な仲間と過ごす、最後の中学校生活の一瞬一瞬を大事にすることです。

「本気になって一歩を踏み出してみよう。そうすれば見えてくる世界が変わる。」僕は、この言葉に出会えたことで、どんなことにも挑戦する自分、前向きに考えられる自分に変わりました。

残り少ない学校生活だからこそ、本気で踏み出すこと、仲間を大切にすることを、僕は決して忘れません。生徒会長である僕が本気で行動すれば、全校の仲間も本気で応えてくれると信じています。「誰もが本気になり、仲間と絆を育み、みんなで成長する北中」という、新しい世界。そんな世界が見えてくる、北中開校二年目にしていきます。